

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
(看護)小規模多機能型居宅介護事業所サービス連絡会

開催日：令和3年11月17日(水)

時間：13:30~15:00

場所：阿南市役所204会議室

目的：同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行う。

参加者：16名

| | |
|------------------------|----------------|
| 多機能ホーム キムラ | ：管理者 木村 賢徳 |
| 小規模多機能ホーム 緑風会登子 | ：管理者 新濱 茂哲 |
| 小規模多機能型居宅介護事業所 花畑 | ：管理者 山本 洋子 |
| 小規模多機能型居宅介護セカンドハウスサクラ | ：管理者 長谷 ハルエ |
| シルバー小規模多機能ホーム | ：介護支援専門員 島尾 敬子 |
| 地域密着型小規模多機能型居宅介護ホームいちご | ：介護支援専門員 石橋 稔之 |
| 小規模多機能ホーム 健祥会セビリア | ：管理者 井出 主樹 |
| 菜の花小規模多機能ホーム | ：看護師 近藤 佐誉子 |
| 看護小規模多機能型居宅介護 寿限無 | ：介護支援専門員 寶諸 武士 |
| 複合型サービス なかよしホーム | ：介護支援専門員 長尾 薫 |
| 看護小規模多機能型居宅介護 たちばなの里 | ：介護支援専門員 遠藤 早苗 |
| 地域共生推進課 | ：課長 日下 浩之 |
| 地域共生推進課 | ：主査 松崎 由美 |
| 地域共生推進課 | ：事務主任 織原 裕希 |
| 介護保険課 | ：主事 福島 康人 |
| 在宅医療・介護連携支援センター | ：センター長 湯浅 祐司 |

(1)挨拶：阿南市地域共生推進課 日下浩之課長

(2)本会について事務局からの説明

同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
また、在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行うことが目的。

(3)自己紹介

(4)意見交換

◆新型コロナウイルス感染症に伴う事業所の取り組み

○利用者の対応について

- ・新型コロナウイルス感染症で県外からの帰省家族等との接触となった場合は2週間、利用を控えてもらっているが利用者の2週間はかなり負担が大きい。このことで基準を統一することはできないか？

⇒入所者・利用者の気持ちになってのケアに努める。また、感染対策を行い、施設で対応できる範囲で、原則は断れないことをしっかりと把握して対応に努める。

○面会について

- ・小規模多機能型居宅介護は施設の大きさも大きくなく、面会スペースも限られているので屋外での面会を行うなど工夫をしている。
⇒屋外だからといって感染対策をしないのは駄目であり、チェックシート項目をしっかりと対応することが原則である。
- ・令和3年10月11日より再開している事業所が殆どであり、現在、面会は参加全施設が実施している。
- ・県外の面会者はワクチン接種や陰性証明があれば面会可能。
- ・飲食を伴う面会は禁止。
- ・リモート面会を活用しているが希望者は少ない。

⇒国の緊急事態制限や徳島県のアラートの状況によって対応をしていく。
厚生労働省より、面会制限を解禁するように言われているので、施設で対策・対応をしっかりと行い利用者や家族の気持ちになって対応をしていく。

◆利用者確保に対する取り組み

- ・医療関係からの紹介が多いが、重度化しており施設の医療知識のアップが必要。
- ・重度化に伴い、登録者が20名を超すと泊りの利用者が多く登録者を増やすことができない。
- ・重度化に伴い、主治医等への相談だけでは賅えない場合はどこに相談したらよいか。具体例としては、パーキンソン病で嚥下能力も低下しており、小規模多機能型居宅介護から他施設への移動する場合の相談先等。
⇒基本的には主治医の意見となるが、在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ会議でも議論し、フィードバックを行う。

⇒在宅医療・介護連携支援センター開催の研修や阿南市よりの研修に積極的に参加して、スキルアップをしていく。

また、利用者のニーズをしっかりと汲み小規模多機能型居宅介護としての役割をしっかりと説明等も行う。

(5)組織運営について

阿南市内の特別養護老人ホーム部会の立ち上げに賛同して頂き、令和3年度の部会長として多機能ホーム キムラの木村管理者に推薦により決定。

今後は、部会を積極的に活用してより良い関係の構築をして運営に反映させていく。

【総評】

名前は知っているが顔が分からない、悩みや不安があった職員が直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、利用者にとっては一番希望されることが多い事業種別でもあるので在宅での生活が長く継続できるよう、専門性を高める良い連絡会となった。

医療と介護の連携で、スキルアップが課題との意見があったので、当センターや阿南市より研修案内や情報提供をし、活用して頂く。

連絡や情報交換はメール等を活用してスムーズな連携に繋げる体制で部会運営を行っていく提案し、参加者よりの賛同を得られることができた。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【連絡会風景】



報告者：センター長 湯浅 祐司